

氏名：小林美育

所属：地域教育文化学部

学年：2 年

派遣先：ラトビア大学

派遣期間：2015 年 8 月 6 日～2015 年 8 月 22 日

日本語教室

日時

月曜日から金曜日

ビギナークラス 14：30～16：00

アドバンスクラス 16：30～18：00 or 18：00～19：30

内容

＜ビギナークラス＞

- ・50 音（あいうえお・・・濁音、半濁音、拗音、発音練習を何度も繰り返し行った）
- ・挨拶（おはよう、こんにちは、こんばんは、さようなら、ありがとう、またね・・・など）
- ・数字の言い方（一の位から千の位まで。問題をつくり答えてもらった）
- ・自己紹介（はじめまして。私は〇〇です。私は〇さいです。よろしくお願いします・・・など）
- ・A は B です。（A=B）（A と B に入る単語をたくさん教え、自分で文章を作って発表した）
- ・日付、誕生日の言い方（今日は、昨日は、私のたんじょうびは、〇月〇日ですの言い方など）
- ・じゃんけん（じゃんけんのやり方を教え、じゃんけん大会を行った。勝者には日本のお菓子やお土産を渡した。）
- ・かるたづくり（初めの文字だけ与え、語彙を増やすことを目的としてかるたを作り、かるたを行った）

＜アドバンスクラス＞

- ・味覚の言い方（日本からせんべい、チョコレート、ラトビアの酸味の強いお菓子を用いて、すっぱい、からい、にがい、あまい、しょっぱい・・・などの味の言い方を教えた）
- ・文章をつくり会話の練習（自分のことについて 2 つはほんと、1 つはうその 3 つの文章を作ってもらい、黒板に書き発表し、質問タイムを設け、うそはどれかを当てた。また、週末の出来事や明日の予定などの文章を作ってもらい、発表し、質問タイムを設けた）
- ・読み物（読み物に出てくる漢字や単語、文法を確認し、日本語の読み物を一人一文ずつ音読した後、英語に翻訳してもらった。最後に文章の内容についての〇×問題に取り組んだ）
- ・歌（上を向いて歩こう、let it go を用いた。歌詞の穴埋め問題を作成し、音楽を聞いて単語を埋めてもらった。歌詞の意味を確認しながら行い、その後皆で楽しく歌った）
- ・ダンス（妖怪ウォッチを用いた。歌と同じような方法で取り組み、踊りも教えた）
- ・浴衣（日本文化に触れるという目的から日本から持っていった浴衣を着せてあげた。とても嬉しそうにして着てくれた）
- ・漢字、（口に 2 画を足して漢字を作ったり、色、体の部位、などの漢字を教えた）
- ・ことわざ（ことわざの意味を英語と簡単な日本語で教えた）

ラトビアについて三日目くらいの授業までは、授業の日程が確定していない状況であり、参加者も、それぞれのクラスで5人前後であった。しかし、一日2コマの授業と確定してからは、ビギナークラスでは約30人の生徒が参加してくれた。それまでは少人数であったため、いきなり30人の生徒が教室の前で待っていた時の驚きは今でも忘れられない。日本語教室の参加者は、高校生、大学生、社会人、おばあさん、親子・・・など様々な年代の人が来てくれた。仕事の合間をぬって来てくれた人もいた。一度授業に来てくれた生徒はその次も毎回の授業に参加してくれた。私も生徒の名前を覚え、名前を呼び、一人一人との信頼関係を築きながら授業を行った。また主に、アドバンスクラスでは、なるべく日本語を使いながら授業を行った。私が英語を勉強する時、英語での授業の方が聞き取りの勉強になることと同じように、日本語チューターとして最も私にできることは日本語でたくさん会話をすることであり、生徒にとって、私が日本語を話すことで教室にいただけでも日本語の勉強になると考えた。毎回の授業で、今日の日付や天気などを日本語で確認してから行い、授業の内容や説明も、日本語を使用した。生徒がわからなそうな顔をしているときは、簡単な日本語に置き換えたり、時には英語も使ったりして授業を行った。分からないことがあるとすぐに質問をしてくれたり、私の言葉に繰り返して大きな声で発音をしてくれたり、歌を教えたら本当に楽しそうに歌ってくれたり、踊ってくれたり、真剣に私の話を聞いてくれて、私も楽しみながら授業を行うことができた。もちろん、クラス内でもレベルが様々であり、平日一日2コマの授業内容を考えることも、授業をすることも決して簡単なことではなく、苦労したが、生徒にどのようなことを学びたいか聞きながら、生徒の熱心さに助けられながら、授業をやり通すことができた。臨機応変に対応すること、どのような授業を行ったらみんなが楽しんで日本語を学べるかを考えることが大切であると感じた。日本語学習の理由を尋ねたところ、日本で働きたいという人や、大学で日本語や日本文化を専攻している人、小さい頃に日本語を少し勉強した人、アニメが好きな人、様々であったが、日本語のひらがなや漢字が芸術的で素敵だという理由で日本語学習を始めた人も何人かいた。

現地での交流活動

日本語教室が始まる前や終わった後に、生徒と一緒にご飯を食べに行った。RIDO というラトビアの伝統料理屋さんや、ラトビアのお寿司や韓国料理など、毎日のようにいろんなお店に連れて行ってもらった。どれも美味しかった。食べてばかりではなく、観光もたくさんした。リガの旧市街は世界文化遺産に登録されているだけあって、どこを歩いてもここはヨーロッパであると実感させられた。リガに着いたその次の日に旧市街を観光したが、ヨーロッパに初めて来た私にとっては驚きであった。路上で演奏される音楽に揺られ、色とりどりの建物と石で敷き詰められた道、おしゃれな街並みはとても素敵だった。一方で、ロシアやドイツの建物も所々にあり、支配されていたラトビアの歴史を物語っていた。他にも、中央市場、ユールマラという海、地方のいくつかの都市にも行ったりした。ラトビアで有名なアイスホッケーの試合観戦にも行ってきた。ラトビア対ロシアの試合では殴り合いの試合になり、観客の盛り上がりも日本とは少し違い、海外スポーツを観戦できてとても嬉しかった。また、休日を使って、リトアニアにも行くことができた。バスに乗って4時間位で他国に行けてしまうということは、なかなか日本ではできない良い体験であった。また、仲良くなった友達の家に行ったり、ホームステイをさせてもらったりした。そのような様々な活動を通して、ラトビアと日本の文化の違いや、ラトビア人の人に干渉しすぎず個人を尊重する思いやりのある人柄、ラトビア人の優しさを感じることができた。

感想

プログラムを通して、たくさんの出会いに感謝したい。私は、以前もこのプログラムでベトナムに行ったことがある。その時は、私の他に10人近くの日本人がいた。その時とは違い、今回は、日本人一人であったため、ラトビアに行く前は、期待もあったが、正直不安でいっぱいであった。しかし、日本人一人で行動することで、より異国にいるという実感も湧き、行動力や責任感が強まったと感じる。毎回の授業の準備にはたくさんの時間を費やし、授業はとても緊張したが、自信にもつながった。日本からの飛行機では、偶然隣に座っていたイギリスの女の子と友達になることができ、不安もかき消されていった。日本語教室に来てくれた人との出会いはもちろん、その他にもたくさんの人に出会った。ラトビアで日本語講師の経験のある関口さんと話をする事ができ、その話から、ラトビアにいるプロの日本人サッカー選手と会う機会もいただけた。また、ラトビアに留学中の寮に滞在している日本人とも会い、その人のつながりで、リトアニアやポーランドに留学している日本人とも話をする機会があった。その他にも、リトアニアで世界を旅している上海人に会い、ラトビアでも再会し話をする事ができた。このプログラムで出会ったたくさんの人から、私にとって今まで考えたことのない経験を聞き、とても刺激を受けた。そのような人生も楽しそうだ、面白そうだと感じた。

今後の展望

今回の経験を周りの人とも共有し今後の生活に活かしていきたい。これからも国際活動に積極的に取り組み、様々な体験をしていきたい。

国際交流室の皆さん、ラトビアで出会えた皆さん、このプログラムに携わっていただいた皆さん本当にありがとうございました。

